

## 豊の国ビジネスひろば

### （株）木下築炉 フィリピンにおいて火葬関連ビジネス開拓へ

築炉工事などを手掛ける（株）木下築炉（大分市、安樂真澄社長）は、フィリピン共和国において火葬関連ビジネスの開拓に取り組んでいる。

フィリピンは、人口の9割近くがキリスト教を信仰しており、宗教上の理由で土葬が主流となっている。1区画を占有する墓の場合は土地と墓のセットで7～8万ペソ（日本円で約14～16万円）に対し、火葬費用は2～2.5万ペソ（日本円で約4～5万円）。富裕層の墓は広い区画に高い柵まで付いている一方、貧困層は共同墓地の積み上げ式の墓に入り、3～5年の契約制でそれ以上支払えなければ墓ごと処分される場合もあるとされる。費用面から火葬を選択する人が増えており、都市部では土地が不足している上、新型コロナウイルスの影響もあって需要が伸びている。

同社は、工業炉や焼却炉などの築炉工事、耐火工事で実績を重ねており、2016年経済産業省中小企業庁が主催する「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定されるなど対外的な評価も高い。2018年12月事業の強化やフィリピンの社会インフラ整備支援とともに、技能実習生の帰国後の雇用を確保するため、マニラ首都圏マカティ市に現地法人「KINOSHITA CHIKURO PHILIPPINES, Inc.」を設立し火葬炉販売及びメンテナンス事業を開始。日本では人用火葬炉を製造していないが、ペット用火葬炉を拡張して人用に改造し、価格を抑えることで同国での販路拡大を目指している。コロナ禍で当初の計画より遅れているものの、首都圏に近いカビテ州において火葬炉の1号機が近く稼働する予定。現在は日本から輸送している火葬炉を将来的にはフィリピンで製造し、インドネシアやマレーシアなどへの展開も視野に入れている。